

平成 22 年度 特例社団法人日本小児保健協会

総会議事録

日時：平成 22 年 4 月 23 日（金）19：30～20：30

会場：岩手情報交流センター「アイーナ」

《総会の成立》

平成 22 年 4 月 23 日（金）、岩手情報交流センター「アイーナ」（岩手）において、社員総数 225 名（理事 25 名、代議員 200 名）出席者数 45 名、うち委任状 113 通を加え社員の過半数以上に達したことを確認した上、議長に関口 進一郎先生を選出し、議事録署名人に河野陽一（千葉県）、掛江直子（東京都）両氏を指名し開催した。

報告事項

1. 庶務報告

*平成 21 年度庶務報告に関して衛藤会長より報告があり承認された。

(1) 会員数

	平成 21 年 3 月 31 日	平成 22 年 3 月 31 日
会 員	4,865 名	4,934 名
	(正会員 4,563 団体 302)	(正会員名 4,626 団体 308)
賛助会員	15 社	15 社

1) 平成 21 年度新入会員数（団体・賛助除く） 379 名

<職種別新入会者>

医師 82 名、歯科医師 7 名、保健師 31 名、助産師 11 名、看護師 92 名、
栄養士 5 名、養護教諭 4 名、保育士 5 名、教職・研究職 96 名、その他 46 名
合計 379 名

2) 平成 21 年度退会会員数（団体・賛助除く） 293 名＋転居先不明 49 名

<職種別退会者>

医師 104 名、歯科医師 8 名、保健師 17 名、助産師 7 名、看護師 52 名、栄養士
11 名、養護教諭 2 名、保育士 4 名、教職・研究職 54 名、その他 20 名、不明 63
名 合計 342 名

参考

<職種別会員数>

医師 1,926 名、歯科医師 133 名、保健師 194 名、助産師 88 名、看護師 450 名、
栄養士 50 名、養護教諭 19 名、保育士 37 名、教職 778 名、その他 221 名、

不明 730 名 合計 4,626 名 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

(2) 人事について

1) 支部長交代

(支部)	(旧)	(新)
富山	摂津 浩二 (セツ コウジ)	本間 一正 (ホンマ カズマサ)
三重	多喜 紀雄 (タキ ミチオ)	庵原 俊昭 (イハラ トシアキ)
奈良	吉岡 章 (ヨシオカ アキラ)	嶋 緑倫 (シマ ミドリ)
山口	古川 漸 (フルカワ スム)	市山 高志 (イチヤマ タカシ) (敬称略)

2) 代議員交代

(支部)	(旧)	(新)
岡山県	岡 鏝次	下野 勉 (敬称略)

3) 平成 21 年度名誉会員

東京都	村上 睦美 (ムラカミ ムツミ)	
石川県	佐藤 保 (サトウ タモツ)	
石川県	右田 俊 (ミギタ トシ)	
石川県	兼松 謙三 (カネマツ ケンゾウ)	
島根県	飯塚 雄哉 (イヅカ ユウヤ)	(敬称略)

4) 訃報

- ・岡 鏝次(カ エンジ)先生 代議員 平成 21 年 11 月 30 日 70 歳
- ・今村 榮一(イムラ エイチ)先生 名誉会員 平成 22 年 1 月 23 日 91 歳
- ・藤枝 憲二(フジエダ ケンジ)先生 代議員 平成 22 年 3 月 19 日 62 歳

2. 日本小児保健学会開催計画

(1) 第 57 回 (平成 22 年) 日本小児保健学会

会頭：内山 聖 教授 (新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野)

メインテーマ：「子ども達の未来を信じよう、そして、

子ども達が夢を持てる社会に」

日時：平成 22 年 9 月 16 日 (木) ~18 日 (土)

会場：朱鷺メッセ

(内山会頭に代わり菊池透先生が報告)

(2) 第 58 回 (平成 23 年) 日本小児保健学会

会頭：大西 文子 教授（藤田保健衛生大学医療科学部看護学科小児看護学）

日程：平成23年9月1日（木）2日（金）3日（土）

会場：名古屋国際会議場

仮テーマ：「子どもの育ちを見守り、地域で暮らす子どもと家族にできること！」
（大西会頭が報告）

3. その他

*衛藤会長より報告があり承認された。

（1）公益法人化するかはまだ未定ではあるが、どちらにしても次回の秋季総会までに定款改正が必要との話があった。（公益法人担当平岩常任理事より説明）

（2）平成22年度名誉会員の推薦

各都道府県支部長に、平成22年6月末日までに事務局まで提出依頼。

（3）小児保健奨励賞

1) 各都道府県支部長に、平成22年度実践活動助成候補者につき、推薦状を会長宛平成22年6月末日までに事務局へ郵送依頼。

2) 研究活動助成・実践活動助成の各選考委員選任中

（4）平成21年度活動状況報告提出の依頼

各都道府県支部長に、支部活動報告を400～600字にまとめて、平成22年5月末日までに編集部へ提出依頼。

（5）第27回小児保健セミナー開催

日時：平成22年6月20日（日） 10:00 AM～4:30 PM

会場：国立成育医療研究センター講堂（東京都世田谷区大蔵2-10-1）

テーマ：『保育の問題をめぐって』

（6）都道府県各支部主催の研修会支援について申請があった各支部に対して、助成を行った。（50,000円）

（7）発育委員会の下に「平成22年度乳幼児身体発育調査小委員会」新設

委員長 加藤則子（国立保健医療科学院生涯保健部長）

瀧本秀美（国立保健医療科学院生涯保健部母子保健室長）

秋山千枝子（あきやま子どもクリニック院長）

益子まり（川崎市川崎区保健福祉センター川崎保健所長）

（8）平成22年2月23日に、厚生労働省による定期立ち入り検査があった旨、報告された。

4. 平成22年度からの新規事業

（1）協会のイメージをリフレッシュするため、現在のシンボルマーク・ロゴタイプを新設し、公募することとした。（衛藤会長）

- (2) 小児保健研究リニューアルの件（編集活動担当小坂橋常任理事）
 来年の小児保健学会までには発行予定とするか現在確認中
- ① 要望集
- ② テーマ「小児保健の現状と課題」を決めて各分野の専門の先生から執筆を
 検討中
- 機関誌「小児保健研究」第70巻記念号発行を検討中
- (3) 各委員会による市民公開講座を開催していくこととした。（衛藤会長）
- (4) 厚生労働科学研究費補助金により平成22年度幼児健康度調査を実施すること
 となった。（衛藤会長）

審議事項

1. 平成21年度事業実施報告(案)

*平成21年度人事報告に関して衛藤会長より報告があり承認された。

(1) 役員改選

1) 会長・副会長・常任理事・監事

新役員 業務分掌		
会 長	衛藤 隆	
副 会 長	福永 慶隆	(庶務担当)
副 会 長	大西 文子	(協会活動担当)
常任理事	五十嵐 隆	(財務担当)
常任理事	加藤 達夫	(予防接種・感染症担当)
常任理事	小坂橋 靖	(編集担当)
常任理事	高橋 孝雄	(教育普及担当)
常任理事	平岩 幹男	(公益法人担当)
監 事	柳澤 正義	
監 事	鈴木 順造	

2) 理事25名・代議員(200名)が選任された。(平成21年度秋季総会資料参照)

(2) 平成21年度総会

1) 春季総会

平成21年4月17日(金)、奈良県立婦人会館において、春季総会が開催された。社員総数212名(理事25名、代議員187名)出席者数163名(うち委任状112通)であり、

総会は成立した。議長に渡辺 博氏、議事録署名人に齋藤麗子（東京都）・服部益治（兵庫県）両氏を選任し開会した。

下記の議案が承認された。

I：平成 20 年度事業報告

II：平成 20 年度収支決算および監査報告

2) 秋季総会

平成 21 年 10 月 30 日（金）、大阪国際会議場において秋季総会が開催された。社員総数 212 名（理事 25 名・代議員 187 名）に対し、出席者数 132 名（うち委任状 106 通）

であり、総会は成立した。議長に大藪 恵一会頭、議事録署名人に福永 慶隆・前田美穂（東京都）両氏を選任し、開会した。

下記の議案が承認された。

I：平成 21 年度事業報告

II：平成 22 年度事業計画案

III：平成 22 年度収支予算案

IV：役員改選

(3) 役員会等の開催

全国理事・支部長会 2 回、新理事会 1 回、常任理事会 5 回、代議員会 1 回、合同委員会 1 回、編集委員会 6 回、予防接種・感染症委員会 6 回、発育委員会 1 回、小児救急の社会的サポートに関する委員会 4 回、学校保健委員会 6 回、栄養委員会 1 回、平成 22 年度幼児健康度調査委員会 1 回、平成 22 年度幼児健康度調査小委員会 3 回、小児医療委員会（チャイルドシート検討委員会 1 回・事故予防検討会 1 回）2 回、平成 21 年度中央選挙管理委員会 2 回、研究助成委員会 1 回、実践活動委員会 1 回、健やか親子 21 推進協議会第 4 課題 1 回、健やか親子 21 推進協議会総会 1 回、健康日本 21 推進全国連絡協議会 2 回を、平成 21 年度に開催し、本協会の事業遂行上必要な案件を協議、決定し運営した。

(4) 日本小児保健学会の開催

第 56 回日本小児保健学会を開催。

会頭：大藪 恵一教授（大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座小児科学）

日時：平成 21 年 10 月 29 日（木）・30 日（金）・31 日（土）

会場：大阪国際会議場（大阪）

テーマ：「すくすく育て、こころとからだ」

参加者数は約 1,100 名であった。

(5) 機関誌等の刊行

- ・「小児保健研究」68巻3号～69巻2号を発刊した。
- ・「小児保健シリーズ」No. 63「小児保健ネットワーク」を刊行した。
- ・「小児保健シリーズ」No. 64「乳幼児健診とその周辺、いま知っておきたいこと」を刊行した。

(6) 小児保健セミナーの開催

第26回小児保健セミナー「乳幼児健診とその周辺、いま知っておきたいこと」
平成21年6月21日（日）に国立成育医療センター講堂に於いて開催した。
（参加者：246名）

(7) 講演会等の開催

1) 市民公開講座開催（予防接種・感染症委員会）

日時：平成21年11月3日

場所：国立成育医療センター

- ・朝日新聞社と共催、厚生労働省後援、国立成育医療センター協力
- ・参加者250名
- ・12月23日朝日新聞朝刊に記事掲載

2) 「小児保健研究」第69巻2号に掲載予定の座談会開催（予防接種・感染症委員会）

日時：平成21年12月27日（日）

場所：国立成育医療センター総長室

テーマ：「指導者に必要な予防接種の最新知識について」

3) 判定技術養成講習会（DENVERⅡーデンバー発達判定法ー）を2回開催した。

4) 支部研修会開催助成

- ・「平成21年度岩手県小児保健研修会」
- ・「平成21年度徳島県小児保健研修会」
- ・「第20回石川県小児保健学会および研修会」
- ・「平成21年度栃木県小児保健協会総会・研修会」
- ・「秋田県小児アレルギーフォーラム2009」
- ・「母子保健研修会」（山梨県小児保健協会）
- ・「平成21年度宮崎県小児保健研修会」
- ・「愛知県小児保健協会学術研修会」

(8) 協会活動

1) 編集委員会、予防接種・感染症委員会、発育委員会、小児救急の社会的サポ

ートに関する委員会、学校保健委員会、栄養委員会、小児医療委員会（チャイルドシート検討委員会・事故予防委員会）、平成 22 年度幼児健康度調査委員会、健やか親子 21 協議会第 4 課題のそれぞれが本協会の目的のために活動した。

- 2) スマトラ沖地震、ハイチ地震、チリ大地震へ義援金を拠出した。
- 3) 第 16 回日本小児看護学会学術集会ランチョンパフォーマンスセミナー（平成 21 年 9 月 6 日（日）：高山市民会館）において、「家族の傷害予防とチャイルドシート」をテーマとしチャイルドシート啓発活動を行った。

講演：服部益治（兵庫医科大学小児科）

デビット中林（NPO 法人チャイルドセーフティ）

座長：大西文子（藤田保健衛生大学医療科学部）

- 4) 小児保健奨励賞について

《研究助成》

○本郷 実 氏（信州大学医学部保健学科）

「中学生の生活習慣病調査研究と社会的取り組み」

《実践活動助成》

○関 秀俊 氏（金沢大学医学部保健学科）

「NPO 法人 子どもの虐待防止ネットワーク石川（CAPNET 石川）」

○中川恒夫 氏（子どもをタバコから守る会・愛知 世話人代表）

「愛知県内の遊園地、公園等の脱タバコ対策に関する継続調査」

- 5) 支部活動

全国 47 支部は、研修会の開催、機関誌の発行等を行っている。

（平成 20 年度支部活動は、小児保健研究第 68 巻 4 号 P. 498-512 を参照）

（9）日本小児科連絡協議会

- 1) 日本小児科連絡協議会 6 回（日本小児科学会・日本小児科医会との合同で開催）
- 2) 合同委員会
 - ・「子どもをタバコの害から守る」合同委員会 4 回
 - ・自動車乗車中の子どもの安全推進合同委員会 3 回
 - ・子どもとメディア委員会 1 回
 - ・予防接種推進専門協議会 1 回
 - ・「（仮称）子育て支援ハンドブック」編集委員会 1 回
 - ・「第 4 回子どもの食育を考えるフォーラムー子どもの食は大丈夫？ー」1 回

2. 平成21年度 収支決算案ならびに監査報告 （別紙資料P. 9～14）

*財務担当五十嵐 隆常任理事より平成 21 年度決算報告について報告され、引き続

き監査については柳澤監事より報告されいづれも承認された。

3. 次々期日本小児保健学会 会頭について

〈第 59 回日本小児保健学会〉

* 衛藤会長より小田 慈先生（岡山大学保健学科教授）を担当会頭に推薦され、満場一致で承認された。日時等は、未定。

4. その他（衛藤会長より）

(1) 代議員 1 名増員の件

理事会推薦枠から関口進一郎が代議員に推薦され、承認された。

(2) 日本小児保健学会名称変更の件

日本小児保健学会が日本小児保健協会の事業ということがわかりにくい、との意見があった。そこで、名称を日本小児保健協会学術集会としていきたいとの提案が常任理事会であり、審議された。第57回学会は、すでに準備が進んでいる関係があるため、第58回学会から名称を変更するという事で承認された。

(3) 「公的外部団体の科学研究における利益相反管理規程」は承認された。

当協会は、「平成 22 年度幼児健康度調査」を厚生労働科学研究費補助金を受け、実施する予定である。受託に当たり「利益相反委員会」と「利益相反管理規程」の整備は必須事項である。

(4) 「公益事業基金」設置並びに「公益事業基金に関する施行規定」設置の件は承認された。

厚生労働省指導の下、平成 20 年度の内部留保超過分を解消する為、下記の基金設置が承認された。

- 1) 機関誌「小児保健研究」第 70 巻記念号発行基金
- 2) 公開講演会開催基金

5. 委員会報告

* 衛藤会長から各委員会活動発表の趣旨説明があり、下記の各委員会より報告があった。

(1) 予防接種感染症委員会（庵原俊昭先生）

日本小児科連絡協議会委員会として「予防接種推進専門協議会」が発足された。厚生科学審議会感染症分科会 予防接種部会の審議に関する要望書を厚生労働大臣 他関係部局に提出された旨、報告があった。

(2) 小児救急に関する社会的サポート委員会（大西文子先生）

小児救急に関する電話相談員研修会について概要が報告された。

(3) 学校保健委員会（岡田知雄先生）

平成21年度の委員会活動が報告された

- (4) 平成22年度乳幼児身体発育調査小委員会（加藤則子先生）

平成22年度乳幼児身体発育調査の実施計画が報告された。

- (5) 自動車中の子どもの安全推進合同委員会（資料配布）

消えゆくチャイルドシート助成事業

～日本の市における助成事業は2001年から2008年でどう変わったのか～

6. 質疑応答

- (1) 事務局移転の利点・予算規模

- ・円滑に業務がすすむように。詳細は今後の検討である。
- ・予算規模については、現状を大幅に超えない程度に検討中。

- (2) 会員増強のために、年会費を職種別にしてはどうか

- ・今後の懸案としたい。

- (3) 日本小児保健協会学術集会の講演演目に関して会員からの提案が可能か

- ・従来は会頭に一任していた。会員から公募のシステムはとっていなかった模様である。今後、各会頭に考慮していただくようにしたい。

平成22年4月23日

特例社団法人 日本小児保健協会

議長 関口 進一郎 ⑩

議事録署名人 河野 陽一 ⑩

議事録署名人 掛江 直子 ⑩